

平成28年度「市長と語り合う会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
10月17日（月）	豊川地区振興センター	19:00～20:05	22	3	25

- 市側出席者
市長、副市長、政策企画局長、秘書広報課長

2 会の概要

- 開会（秘書広報課長）
 - ・会の趣旨説明
 - ・出席者紹介
- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

1. 4つの重点分野

①産業振興と交流拡大

益田市が発展し人口を拡大するうえでは、産業を活発にして仕事をつくることが大前提となり、そのためには高速交通基盤を確保することが重要となる。

課題となる高速道路の整備については、現在進捗する浜田から益田間の整備に見通しが立ちつつあり、今後は益田から萩間の整備を進めていく必要がある。

もう一つの高速交通網である萩・石見空港の活用については、現在の東京線2往復運航の継続に併せ、大阪便の季節限定運行を通年運航されるよう利用拡大に取り組む必要がある。

交流拡大については、現在、国内の姉妹都市又は友好都市である大阪府高槻市、豊中市、神奈川県川崎市との間で行政・スポーツ・経済等の分野で相互交流が少しずつ広がっており、これをさらに定着させて拡大することが重要であると考えます。

また、海外との交流も大切であると思っている。特に本年度は、長い間交流が途絶えていた中国寧波市より萩・石見空港マラソン大会に8名の代表選手団を迎えるなど、交流再開に向けた動きが大きく進んでおり、こうした国際交流を定着させることによって、経済や観光の面でも効果を上げていきたい。

②安心して暮らせる基盤づくり

今から9年後の2025年には団塊の世代の方々が高齢者となられ、今よりさらに高齢者福祉を手厚くする必要があると思っている。そのために現在、地域包括ケアシステム（医療・介護・介護予防・生活支援・住宅整備の支援）の構築に取り組んでおり、今後はこの相談窓口となる地域包括支援センターの機能について、民間活力を活用しながら強化していきたいと考えている。

医療については、医師や看護師などの医療従事者の確保が重要となっている。最近では、地域枠推薦で学んだ島根大学医学部や石見高等看護学院の学生が地元の医療機関へ帰ってきて活躍するという流れが少しずつ整ってきており、この流れをさらに大きなものにしていきたいと思っている。

さらに、交通安全や防犯、防災についても関係機関と連携して取り組んでいきたい。

③教育・文化の振興

現在益田市では、「ひとづくり」に力を入れて取り組んでおり、本年3月に「ひとづくり協働構想」という大きな計画を策定した。このなかで、「次世代を担う人材」、「しごとを担う人材」、「地域を支える人材」の3つの人材育成をそれぞれ関連づけながら進めていくという方向性を示したところである。豊川地区は、次世代育成や地域の担い手育成など地域ぐるみで取り組む先進的な地区である。こうした事例を他の地域に広げていき、「ひとづくり」の仕組みをきちんと確立させていきたいと思っている。こうすることができれば、益田市が教育・ひとづくりを

進める先進地区であることも発信でき、益田の魅力や強みになると思う。

文化の振興については、益田の文化の様々な遺産や芸術文化の発信拠点であるグラントワなど市内にある沢山の素材を活かしていくことが重要であると考えている。特にこれからは、こうした文化と芸術を住民主体で大きく育てていくことが大切になると考えており、現在色々な民間団体の方々と一緒になって話し合う場づくりを進めている。今後、この取組みをさらに広げ、住民主体の文化づくりや芸術振興といった仕組みづくり、枠組みづくりをしていきたいと考えている。

④行財政改革

現在の益田市の大きな課題は財政状況が非常に厳しいということである。特に、合併後10年間適用された合併算定替えによる財政上の特例措置が切れることにより、今後大きな収入源が見込まれ、歳出の削減、歳入の確保を進めていかないと行政運営が立ち行かなくなる。平成25年12月には行財政改革の指針と基本計画を策定し歳出の削減等の取組を進めているが、一方で、プラス思考でこの行財政改革を捉えていくことも必要なことである。

こうした中で現在ふるさと納税の奨励に取組んでいる。昨年12月と本年4月には制度の改正と返礼品の充実を行い、結果、平成27年度の納税額は対前年の3倍増となり、本年度は27年度をさらに倍以上、上回るペースで進んできている。今後もさらに魅力を高めて、歳入の確保に努めていきたい。

また、行政内部でも職員の仕事に対する向き合い方を今より積極的なものにしていきたいと考えている。職員を対象に業務改善事例を発表する機会を設けたり、自分のやりたい仕事を提案させる機会を設けて、自らが進んで仕事に取り組む環境づくりを進めている。このような前向きな行財政改革も同時に進めていきたいと考えている。

3. 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は、別紙のとおり。

- ①岩栃のしだれ桜について
- ②市道今市片山線の一部補修について
- ③IT企業の誘致について
- ④食品の提供等に係る営業許可について
- ⑤防犯灯の設置支援について
- ⑥ふるさと納税寄附者の公表について
- ⑦萩・石見空港のイン対策について
- ⑧沖田児童遊園について

○ 閉 会 （秘書広報課長）

平成28年度「市長と語り合う会」

〔会場 豊川地区振興センター〕 開催日時：平成28年10月17日（月）19:00～20:05

要 望 事 項 等	回 答
<p>①岩柵のしだれ桜について 地域の高齢化が進む中、岩柵のシンボリック的存在であるしだれ桜を管理する人が将来的になくなることが予想される。今後それを管理できない、地域もなくなるような状況をどう考えるか。</p> <p>②市道今市片山線の一部補修について 益田東中学校下（沖田地区）を通る市道の舗装状態が悪く、車が通行するたびに雨で溜まった泥水が民家の外壁や駐車中の車にかかって困っている。これが小中学生の通学路にもなっていることから、舗装のやり替えを実施してほしい。</p> <p>③IT企業の誘致について 現在各家庭や事業所等ではインターネットが直ぐに使用できる環境が整っており、IT企業を誘致することは有効的である。その中で、あけぼの本町の（株）エヌケイアセントはどの様に誘致されたのか。 また、徳島県の神山町は空き家を活用し、IT企業を誘致している。益田市でも東京便の存在をアピールし、大企業でなくても5人から10人程度の小規模な企業に来てもらうような取組みを考えたらどうか。</p> <p>④食品の提供等に係る営業許可について 地域のイベント等で飲食を提供する場合、保健所の指導により開設期間等に制限があり、主婦や若い人が自由に出店したくてもできない状況がある。こうした場所に参加される方は、「自分の商品を食べてもらいたい。」との意欲をもっており、簡単に営業許可が取れるような状態になれば、皆が参加しやすい行事になるのではないかと思う。どの様に考えるか。</p>	<p>①数年前に桜の咲く状況や見物に訪れる方々の姿を拝見し、益田の観光資源の一つになっていると感じたところである。 ご指摘の件について、現在益田市で進めている地域自治組織がその受け皿、担い手になることを期待している。現時点で市内20地区中4地区が認定自治組織として成立しており、今後も豊川地区を含めさらに組織の立ち上げが進むと思う。 これからの地域づくりのあり方は、まず、地域のことを一番よく知り、地域のことについて最も熱意のある住民の皆様に先頭に立ってもらって、行政は財政的な支援など側面的なお手伝いをしていく。こうしたことが必要になると考える。</p> <p>②現在こうした市道の改修や維持について様々な地域から要望をいただいている。現時点で直ちにこれに取りかけられるかどうかお答えできないが、担当課を通じ、なるべく早く対処したい。</p> <p>③東京に本社があった（株）エヌケイアセントは同社の社長さんが本市にゆかりがあったことや、市議会議員の1人のお力添え等より、進出とともに本社も益田市に移されたものである。こうしたソフト系IT企業が益田に進出されたということは大変ありがたいことである。 現在、益田市では情報通信基盤整備事業によりインターネット環境の整備が進んだ。今後もその環境を活かし、首都圏との往来が便利であるという点もアピールして企業誘致に努めていきたい。</p> <p>④市の立場で、県の行う営業許可の緩和措置を実施することは困難であるが、どの様にすれば出店等が円滑にできるのかということを担当課を通じて確認してみたい。</p>

<p>⑤防犯灯の設置支援について 小中学校の通学路になる国道周辺が非常に暗い状況で、自治会負担により防犯灯を今年度2基設置した。このうち市から25%程度の補助はあるが、電気使用量を含め、自治会にとっては大きな負担となっている。現場の状況を考えると、あと2基は必要になると見込んでおり、今後の設置支援について検討してほしい。</p> <p>⑥ふるさと納税寄附者の公表について 関西在住の親族より益田市は寄附者の公表（市ホームページ）が遅いという話を聞いている。できるだけ早く公表すべきではないか。</p> <p>⑦萩・石見空港のイン対策について 現行の萩・石見空港の活用策について、都会から益田へ人を呼び込む努力が見えにくいという声を聞く。アウト対策ばかりでなく、外からの受入れ策についても広報等を通じて広く示すべき。</p> <p>⑧沖田児童遊園について 沖田児童遊園は長年手入れがされていない為、土の状態も悪く、子どもたちが遊べる環境になっていない。過去にはジャングルジムや滑り台もあったが現在は使用できない状態で放置され、他の児童公園と比べても随分と見劣りしている。 一度現状を見てもらい、他の公園にあるような小さいジャングルジムや滑り台を設置するよう配慮してほしい。</p>	<p>⑤要望の趣旨を担当課に伝え、関係する警察や島根県等と相談しながら対応を考えたい。</p> <p>⑥寄附者の公表はその承諾を得られた方のみ市ホームページにおいて行っている。ただし、年度単位でまとめて公表するため、直ぐには対応できない状況にある。今回のご指摘を受け止め、なるべく早く公表するよう努力する。 なお、公表とは別に、1件10万円以上の寄附者には現在礼状をお送りしている。今後お礼の気持ちは返礼品の充実によってお示ししたいと考えており、市外の方には是非ふるさと納税へのご協力をお願いしたい。</p> <p>⑦空港の利用拡大は、益田市と島根県及び関係市町で構成する利用拡大促進協議会が主体となって取組みを進めている。 市広報等では主に市民の皆様が東京便を利用される際の助成金等について掲載しているが、都会地からの観光客向けには個人ではなく旅行会社に対して助成金等の周知や商品造成のお願いをしている。このことは積極的に公表していないため一般には分かりにくいのが、イン対策についてもしっかりと対応している。 今後の課題は、市内に在る観光資源の魅力を高めて、空港の所在地である益田市に滞在してもらうための仕組みをつくることにあると思う。</p> <p>⑧現状を確認して検討していきたい。</p>
--	--